

知恵の樹

No. 265 2022.4.26

町田の図書館活動をすすめる会

<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典

tejitaka@f8.dion.ne.jp

図書館は市民の宝物！

－鶴川地域の図書館を考える市民シンポジウム－ 開催しました

鈴木真佐世（鶴川図書館大好き！の会事務局）

4月15日（金）夜6時20分より和光大学ポプリホール鶴川の地下ホールにて、町田の図書館活動をすすめる会、鶴川図書館大好き！の会、まだ未来の会、町田の学校図書館を考える会の4団体が共催して、会場参加とオンラインの参加を募って、開催いたしました。

この会場での開催については、町田市の図書館、特に鶴川地域の2図書館が今年度、大きな転換期を迎えるにあたって、ぜひ鶴川地域で市民の方々と一緒に図書館がどうあるべきかを考えたいと願い、規模も費用も私たちの身の丈を超えることを承知で、同ホールの2階に2022年4月から指定管理者制度を導入した「鶴川駅前図書館」が入っている、市の指定管理者運営のこの施設の地下ホールを選んだ次第です。

当日は、雨模様の寒い日でしたが、会場には54人の参加者が集い、オンラインでは、北は登別市、西は大阪府、南は小笠原から全国で30名近くの方が参加、熱心に視聴してくださいました。

司会挨拶（手嶋孝典）の後、鶴川地域の図書館の現状報告を鶴川図書館大好き！の会事務局の鈴木真佐世が行い、まず参加者の皆様に今鶴川地域の図書館に何が起きているかを知っていただきました。

基調講演は、翻訳家・作家の辻由美さん（町田市在住）で、本題に入る前に、大前提として図書館は万民のものであり、ある時期を切り取って調べれば、3割の人しか使っていないか、人の一生の中で図書館に世話にならない人は少ないのではないかと、行政も市長もそのような観点で図書館政策を考えてほしいと話されて、本題に入りました。

本題では、辻さんの人生の中で3つの時代に分け

て、図書館を利用し、司書さんにどのように助けられてきたかを話されました。

まず、フランス語も知らずに、フランスで語学留学を始めたとき、語学学校に行きながら、図書館の司書の方に初級でも辞書を引きながら読める本を紹介していただいた。その後も、卒業するまで図書館には世話になったことについて、エピソードを交えて話されました。



フランス語の通訳を始めた時も、通訳する分野の知識を得るのに図書館の司書の方たちに手伝っていただいたおかげで、無事に様々な分野の通訳をできるようになったそうです。

翻訳の仕事始めてからも、図書館でいろいろ資料を出してもらい、翻訳の歴史にも興味を持ち、帰国後、山のような資料を基に『翻訳史のプロムナード』（みすず書房1993）を出すことになった。さらに、いろいろな図書館を使ったことを著者あとがきに書いたところ、講談社現代新書の編集者がやって来て、あとがきの話が面白いので図書館の本を書いてくれとなり、『図書館であそぼう』（講談社1999）を出した。そうしたら図書館利用者代表みたいになって、講演を頼まれるようになって

たり、図書館についての本を書くことになったり、フランスの図書館ツアーのコンダクターにもなったそうです。

そして、図書館の本はいつ必要にされるか分からなくても保存されているが、ネット上では消えてしまう。ウィキペディアなどしょっちゅう書き換えられている。痕跡が分からない。文化を作るのに、図書館はすごく大切と締めくくられました。

Q&A では、フランスと日本の図書館の違い、利用

(会副代表)

指定管理になった町田市立鶴川駅前図書館のこと

庄司 洋子(柿の木文庫)

4月9日の日記

文庫の団体登録更新の申込書を提出に行く。職員
の姿はまばらだ。返却コーナーの方に書類をお願い
すると、「ちょっと聞いてきます」と奥へ。結果、受け取っ
てもらえることに。それから毎年おいてもらっている文
庫の年間カレンダーのチラシをお願いすると、また奥
へ。しばらく待って OK になる。これからお互い、いろ
いろなことを伝え合い、一からやらないといけない。

4月15日の日記

カウンターの閲覧席に座ると、目の前のアクリル板に
五つの禁止と一つの指示を描いたイラストのシールが
貼ってあった。飲食、撮影、持ち込み勉強、通話、PC
禁止(P C は専用席でやってください)。一つの指示は、
ペットボトルはカバンに入れる。おまけに下の隅っこに
ハンバーガーとケータイのイラストにX(バツ)をつけた
シールも。しつこい。全席の前に貼ってある。いつしか
図書館にきたプチわくわく感がしぼんだ。利用者は馬
鹿だと思ってるらしい。あたりで働いている黒いベスト、
黒ズボンの職員さんたちに監視されているような、ひん
やり感に襲われた(すみません、職員の方達は一生懸命
仕事していらっしゃるのに、ただの感覚です)。要は、
制服じゃないといいのに…。掲示物は必要最小限に
してくれたらいいのに…。

児童コーナーに寄る。いつも季節ごとに変わる絵本
の展示が、すごく少なくなっていた。内容はバラバラの
感じ。今更ながら、これまで、いろいろなテーマで司書
さん達が「こんな本もあるよー！」と気持ちを込めてたく
さん並べてくれていたことを感じる。子どもたちも、それ
を見て図書館にきた喜びを感じていたことだろう。本の
世界の豊かさや広さ、面白さを感じていただろう。お金

者教育などについて答えられました。

休憩後の第2部は、辻さんを交えた4人のパネラー
による「市民生活を支える公立図書館」と題したパネル
ディスカッションで、それぞれ違った立場から図書館の
あり方が熱く語られましたが、紙面の都合で、たくさん
寄せられた参加者アンケートの報告とともに、次号でご
報告させていただきます。

が不足していても、せめて子どもたちにはどんどんい
い本を買って読書の喜びを伝えてほしい。図書館が大切
な社会教育の施設だということを忘れていないだろう
か？

4月19日の日記

児童図書のテーマ展示が少し増えていた。よかつ
た！ けど、奥の絨毯の部屋は閉められて、「しまっ
ています」と表示してあった。なんで？ ここは、靴を脱い
で、親子がリラックスして絵本を堪能する空間だった。
私たちが文庫のお話し会をした時も、一般のお客さん
が使いますからと早々に追い出された場所だ。幼い子
どもを育てるお母さんたちも、一時解放たれて、子
どもの話を二言三言交わしたりする大事な場所だった。
ぜひ、戸を開けて開放してほしい。

こういうことって伝える機会があるのだろうか？ 市の
直営だったら、市民として希望を伝えて一緒に考えるこ
とはできたかもしれないけど、相手が市から完全に任さ
れた会社の場合、難しいと思う。図書館ボランティアが
図書館と一緒に考えていっていいのはできるのだろうか？
市は、1年で問題なかったら、他の地域館も指定
管理者制度を導入していくという。企業化した図書館か
ら熱が消え、市民の気持ちが離れてからでは遅い。こ
れは市民が思いを伝えることとともに、町田市の教育委
員会が、社会教育の大切な場所を守るべく発言して頑
張ってもらいたいと切に思う。

(会員)



*カットもご本人
の作品です。

地域の子どもたちがお薦めする図書館の本(第4回)

『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』

廣嶋玲子(作) jyajya(絵) 偕成社 2013年

推薦:遠藤美桜(えんどう・みお)町田市立第三小学校6年生



「型ぬき人魚グミ」「カリスマボンボン」「クネクネクター」「のろいの人形やき」など、『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂(ぜにてんどう)』の表紙には、ユニークなネーミングの駄菓子が描かれています。図書館で発見した時には、思わず手に取って表紙を見つめてしまいました。

現在までにシリーズ 17 巻と公式ガイドブックが出版され、2020年9月からNHKのEテレでアニメが放送されています。2022年2月には第3回「小学生がえらぶ“こどもの本”総選挙」で第1位に選ばれました。「小学生がえらぶ“こどもの本”総選挙」は、全国の小学生が「今まで読んだ中で1番好きな本」に投票してもらう企画です。この本の作者である廣嶋玲子さんは、『知恵の樹』№.262で紹介された『十年屋 時の魔法はいかがでしょう?』の作者でもあります。いま子どもたちの間でいちばん人気の作家さんです。

銭天堂は「幸運の持ち主」だけが訪れることのできる駄菓子屋です。女主人の紅子と真っ黒な猫の墨丸、そして銭天堂の工房でお菓子をつくらしている金色の招き猫たちが住んでいます。客が「お宝」である代金を払うと、そのお宝が招き猫に変身します。紅子は「昭和四十二年の十円。まちがいなしで。お宝、ありがとうございます」と言い、駄菓子を「これはお客さんのものでごんす」と手渡します(16ページ)。客が説明書き通りに駄菓子を食べれば、自分の望みがかないます。しかし、説明書きを読まずにまちがった食べ方をすると、不幸が起きます。

本書(第1巻)は7章構成で、6つのふしぎな駄菓子が登場します。私がお気に入りの駄菓子は「クッキングツリー」です。ふだんは店で客が来るのを待っている紅子が、翔平と北斗の兄弟の家を訪ねました。この子たちの母親は暴力的なうえに、ご飯をつくらしてくれません。それを知っていた同じアパートに住む大学生のすみれが銭天堂のお菓子を贈ったのです。盆栽のようなクッキングツリーには、ハンバーグやエビグラタン、チャーハン、カレーライスなど、ごちそうの味がする実が

次々とつき、兄弟はそれを食べてお腹いっぱいになりました。しかし、それだけでは収まりません。いったい、この「ばちあたりな人を食べてしまう」というクッキングツリーは、母親になにををするのでしょうか。

「ホーンテッドアイス」は、夏にぴったりの駄菓子です。就職したばかりの美紀は、クーラーのない安アパート暮らし。真夏の熱帯夜にたえられない彼女が、銭天堂で買ったライムソーダ味の冷たい「ホーンテッドアイス」を食べると、なんとおばけたちが次々に現れました。美紀は寒いくらいにぞくぞくして暑さを忘れてしまいました。ホラー映画を観る感覚でおばけたちの出現を毎晩楽しむ日々が続いたある日、美紀が2日間の出張から帰宅すると、部屋は空き巣に入られていました。「ああ、まさか!」と叫んだ美紀が部屋を見回したところ、中身の空になったホーンテッドアイスの容器がころがっていました。どろぼうがホーンテッドアイスを食べたのだとしたら.....。

私にとって『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』の魅力的なものは2つあります。1つは、駄菓子をつくる招き猫たちです。何匹もいる招き猫たちが協力してお菓子を作り、助け合う場面がとても可愛らしいです。2つめは、目立たない路地裏の壁に張りつくように建っている銭天堂そのものです。見つけにくい場所にあるミステリアスさが銭天堂にはぴったりです。そんな銭天堂の駄菓子を食った客には、心温まる出来事が魔法のように自分の身の上に起こります。わたしも銭天堂を見つけて、気になる駄菓子を食べてみたいです。

* 町田市立図書館は、9冊所蔵しています。



3 月市議会における鶴川図書館の市民協働型図書館及び鶴川駅前図書館の指定管理化についての審議

鈴木真佐世（鶴川図書館大好き！の会事務局）

3月議会の審議に、2022年度の一般会計予算案が挙げられ、その中の生涯学習部関係の予算が23日の文教社会常任委員会で審議されました。

図書館関係では、鶴川図書館の市民協働型図書館の運営団体立ち上げのための費用1,156万円(内、市民協働型運営団体支援業務委託料902万円)の予算案についての審議です。

この議題については、共産党の田中美穂議員、自民党の藤田学議員、また市民クラブの笹倉みどり議員、無所属の新井よしなお議員が質問しました。

田中美穂委員の質問:

- ① この運営団体の立ち上げのねらい。
- ② 図書館の役割は何だと考えるか。
- ③ 鶴川図書館の専門性を残せるのか、市民協働の図書館では団体貸し出しなどを担えないのではないのか。地域の幼・小学校との連携がどのようになるか。
- ④ どういうところが担うと考えているか。
- ⑤ 市民協働型になったら、団体貸し出しは駅前図書館が担うのか。

図書館側の答弁:

- ① 共に作って共に運営するという形。本を単に貸すだけでなく、本を介して気軽に過ごせる居場所づくりを目的とする。
- ② 資料の収集・整理、それを市民に供する、社会課題に向けて対処することが目的。あり方見直し方針に沿った「目指す姿」の実現。地域との連携。
- ③ 専門性も大事だが、鶴川については、利用も減っているし、予約資料の受け取りが中心なので、地域との連携を伸ばしたい。どこまで担うのか、こちらと一緒にやる必要があるか、どこまで機能を必要としているか、そのほか市民のみなさんと相談して決めたい。
- ④ 団体の想定は、住民が中心ではあるけれど、学習支援の団体もあるので、全体としてチームというか団体を形成していきたい。
- ⑤ 鶴川駅前図書館はこれから先も地域の図書館として活動するので、団体貸し出しも行うことになる。

田中委員は、やはりこれでは絵が見えてこないとい

うのが率直なところで、専門性が担保できないのではと結んだ。

田中委員が、関連して、鶴川駅前図書館の指定管理者制度導入について質問:

- ① 開館時間が増えるなどサービスが向上して、指定管理料が市の従来費用よりも下がるということは人件費の圧縮が懸念される、また、指定管理料は年々上がっていくのでは。
- ② 効果の検証はどこでどのようにしていくのか。
- ③ 他の地域館への拡大などはどこで検討するのか。
- ④ 指定管理者制度導入の他に会計年度任用職員の司書をもっと活用する方法などが市民団体から提案されたかどうか。

図書館側の答弁:

- ① 指定管理者は多くの館を運営しているのでノウハウでコストダウンできている。また、最低賃金が上がれば、コストが上がるのは当然。
- ② 毎月の定例打合せ会、年1回事業報告書の総括で見たい。評価の指標、来館者数、貸し出し数、満足度などのデータ、日常のやり取りで見たい。全体的な評価については評価の委員会が設置されるので、そこで見ていきたい。
- ③ 他館への拡大は図書館が考える。協議会に報告はするが、どのようにするかはこれから。
- ④ 効率的効果的な取り組みをすでに図書館でも行っている(正規職員と会計年度任用職員の仕事を分けたり、本館の一部に委託を行うなど)。駅前図書館の会計年度任用職員の司書で希望する人は、他館で来年度も働いてもらう。一部の補助職員が指定管理のほうに移ったと聞く。

これらの答弁に対して、田中委員は、民間活力の導入で司書の専門性の連続が切れてしまう懸念を伝えて、質疑を終えた。

藤田学委員の質問:

- ① 地域の方々と連携して運営する指定管理者には、鶴川図書館だけのマネジメントだけでなく、学校図書館や私立の大学など、町中図書館という感じにネ

ットワークを展開してほしい。どこまでのことを想定されているか。

- ② デジタルデバイドの講座などを地域の中で、中学校単位で行ってほしい。
- ③ 学校開放や学校図書館と市立図書館のネットワークの連携はできないのか。

図書館側の答弁:

① 全体としては読書マップを作成して紹介。地域で本に親しめる場所を紹介している。

一方で鶴川図書館については、エリアの問題で、鶴川地域で活動している方たちを対象としているが、他の地域でもこのようなことに関心がある人は参加してほしい。

- ② 地域館でも、学校に対してリモートでイベントをしたりしている。このような取り組みを継続したい。
- ③ 現在も、調べ学習の時に学校図書館にない本を団体で貸し出すことはしているし、先生に研修をしたりはしている。一方、ネットワークという点ではこれからの課題。図書館のネットワークとつなげるというのは費用的に掛かるので今後の問題。

これに対し、藤田委員は、その部分はしっかり考えてほしい。町中図書館になれば、否定的な考えはなくなると思うので、積極的に考えてほしいと結んだ。

笹倉みどり委員の質問:

- ① 鶴川図書館の新しい仕組みづくりについて、地域の団体や学習支援グループということだが、どのように団体メンバーを作っていくのか。
- ② 900万円の費用の根拠。
- ③ 本に触れる機会を増やすとかWi-Fiとかふれあいを生み出すことが中心のように聞こえるが、本来の公立図書館の機能が大事なのは。図書館の専門性を重視してほしい。

図書館側の答弁:

- ① メンバーは、鶴川団地名店会、自治会を中心として考えている、鶴川図書館大好き!の会も協力いただけるなら。学習支援のグループもいろいろ団体があるので声かけをする。団体の人数は団体の作り方によって、構成メンバーによる。どういう体制がいいのかは検討したい。
- ② 金額は、事業者から団体設立の支援とか機能、設計、仕組みづくりについて見積もりを取った結果。仕組みづくり、団体をつくるための費用。

③ 鶴川図書館の再編と書いてあるが、全体として時代に合わせた新しい図書館づくりを考えていきたい。鶴川についてはコミュニティづくりをメインに市民運営型に切り替えていく。司書の専門性については町田全体で考えて、調べ物の相談は、中央図書館のいいところであり、伸ばしていきたい。鶴川図書館は、地域の居場所づくりを第一に考える。専門家が入ってくればいいが、これから作っていく中で、大学がかかわることもあり得る。

笹倉委員は、図書館の専門性を重視して考えてほしいと結んだ。

新井よしなお委員の質問:

専門性のある方が入ってくればいいが入らないということもあり得るか。

図書館側の答弁:

地域の方と相談の結果、最終的に入らないということもあり得る。

3月議会の文教委員会での審議を聞いて:

鶴川図書館を居場所づくり最優先の図書館或いは図書館らしきものにするという市の意図は明らかになりましたが、市の図書館として残すつもりなのかどうかという肝心な点は明らかになりませんでした。

図書館の専門性は大事だと言いながら、地域の方と相談の結果最終的に専門性のある人が入らないこともあり得るとする答弁は、専門性は重要でないと言っているのと同じです。質問した委員が皆専門性を重視して考えてほしいと結んでいることは重大です。

市民協働という言葉は聞こえはいいけれど、本当の意味の市民協働で図書館を作り替えようとしているとは思えません。今まで私たちは市に請願や要望書、面談、会合と様々な形で、山ほど意見を届けてきましたが、今回の市民協働型図書館の構想にそれらの意見が生かされているとはとても言えません。

市民協働の図書館をつくらうのなら、組織作りをどこかに委託するのではなく、市が直接、市民と膝を突き合せて新しい図書館づくりに取り組むべきではないでしょうか。今後、市民の意見が本当に反映されるかが非常に心配ですが、鶴川図書館の市民協働型図書館づくりを注視していきたいと思います。(会副代表)

*カットは、しょうじりおさんの作品です。





例会 3/22 (火) 報告

- ・16:00～ 印刷・発送作業等:
清水・鈴木(真)・高橋(峰)・手嶋・丸岡・守谷
- ・18:00～20:00 中央図書館・中集会室
出席: 石井・雲中・坂巻・清水・鈴木(真)・
藪田・高橋(峰)・手嶋・福田・増山・
守谷・山口 傍聴 1名

議題

1. 会報について

次号(No265):巻頭言(未定)→「市民シンポジウム開催報告」(鈴木(真))、「地域の子もたちがお薦めする図書館の本」第4回(入稿予定→遠藤美桜さん)、「3月議会報告」(鈴木(真))、「指定管理が始まった鶴川駅前図書館の様子」(庄司に依頼)、町田市立図書館における全政党機関誌購入中止と「知る権利」の侵害②(伊藤裕夫さん)→No266

2. 来年度の活動計画について

鶴川図書館大好き!の会、まちだ未来の会と連携して活動する。

市長選、市議選の結果を受け、今後の活動を考える。

○講演会

事前準備と当日の役割分担を決め、スケジュールを確認。

タイトル:図書館は市民の宝物!—鶴川地域の図書館を考える市民シンポジウム—

教育委員会の後援は得られなかった。「委員会の教育行政の運営に関する方針に反しないものであること」という教育委員会後援事務取扱要綱第2第1項の規定に該当しないためとのこと

⇒行政不服審査請求をするか。対象になるか調べる。

⇒その前にどこが反しているのか、却下の理由の説明を教委に求めるべきでは。

⇒いろいろな市の後援規定をみてみたが、特別の条件がないところも多数あり、様々だった。

3. 「町田市5カ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

○鶴川図書館大好き!の会の取り組み

2022年度も鶴川図書館が公立図書館として存続できるよう活動する。

3月議会で鶴川図書館の市民協働型の運営へ再構築するための11,559,000円の子算案が審議される。

3月8日に文教社会常任委員会委員9人をまわってきた(鈴木、高橋(門)、守谷)。指定管理では人件費が削られ、市がワーキングプアを作っている事を説明。

○「すすめる会」の取り組み

①鶴川駅前図書館への指定管理導入スケジュール
4月1日から開館時間及び休館日が変更になる。
(以下割愛)

②図書館嘱託労との話し合い

記録を作成中。話し合いを継続する必要がある。
指定管理化が進むと職場がなくなる。官製ワーキングプアを作り出している。

4. 「しんぶん赤旗」購読中止問題について

伊藤裕夫さんが情報公開請求を行った。
町田市議会の会議録を調べた。
伊藤さんが「知恵の樹」No.264に寄稿。

5. 「噂の東京マガジン」(BS-TBS)の取材について

久郷一雄氏からのメール回答:当番組としても内容がはっきりと決まっておきませんので、打合せ時には撮影も録音も致しません。企画趣旨は2つ。簡単に言うと、「非正規公務員のおかれているワーキングプア的な状況を広く知ってもらおう」「上記に対する国の政策がうまくいっていない状況について考える機会にしよう」ということとなります。あくまでも現段階でのものです。これからの取材によって修正すべき点は出てくるのかもしれない。

※3月24日(木)午後に打ち合わせすることになった。

報告

1. 団体及び個人からの報告

嘱託労:新しい会計年度業務職員9名が4月1日から入る。

会計年度任用職員の処遇改善に向けた法改正を求める自治労100万人署名の取組要請がきているので取り組む。会としても拡散することに。4月末締め切り。
学校図書館を考える会:「杉山亮さんのものがたりライブ」予定。50人くらいの会になりそう。

3月6日にオンライン交流会開催。参加は数名。現場の声がきけた。参加者の要望・質問は指導課へ文書で提出した(蔵書点検を学校図書館ですることについての技術や勤務日数が充足していないことなど)。

《編集後記》4月から鶴川駅前図書館に指定管理者制度が導入された。直営の図書館とどのような違いが生じたのか、庄司洋子さんに報告をお願いした。(T²)